

墨の獅子舞（六所神社）

2006. 7. 15

六所神社は墨字広畑にあり、墨の鎮守です。大木の杉の森の中にあります。

六所神社の本殿は流造りの豪華なものですが、平成元年に新築されたものです。

多くの祭神が祀られていますが、明治42年に合祀された神社の祭神全部を合わせたためと思われます。

祭神は天御中主命・伊弉諾命・伊弉冉命・大日靈貴命・保食命・
ふつぬしのみこと・くまのくすひのみこと・あめのひわしのみこと・このはなさくやひめのみこと・うがたまのみこと
経津主命・熊野久須昆命・天日鷲命・木花咲耶姫命・宇賀魂命・
たけみなかたのみこと
武御名方命など十一神となって、珍しいことです。

なお、六所神社には鳥居がありません。酒々井町で鳥居のない神社は六所神社と下岩橋の八社神社・尾上の住吉神社の三社だけです。

六所神社の由緒については、次のように伝えられています。御神体は奥州塩釜の御分体で、相原文治郎という武士が守本尊として諸国遍歴中、たまたまこの郷で死去したので、郷人その本尊を伝えもって祀った（県神社庁台帳を意略）となっています。



墨の獅子舞は、享保19年(1734)墨村の鎮守六所神社の社殿を新築し、その遷宮式に奉納のため、出羽国羽黒山から師を招いて伝授を受けたのが始まりと伝えられています。五穀豊穰・雨乞いの祈願をかけて春秋二回、区内神社と区長宅で演舞されていましたが、中絶の時代もありました。大正15年、再開されてからは、毎年7月15日の祭礼には、六所神社と区長宅の二ヶ所で演舞されるようになり、現在まで続いています。

その種目は、「足揃え」・「芝獅子」・「劔の舞」・「猿獅子」の四種が伝授されています。獅子三、猿一、笛、大太鼓・小太鼓という構成です。古い伝統をよく伝承している郷土芸能として、昭和43年3月、県無形民俗文化財となっています。

